

単
元
名

「熊野町の米作り」

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力, 主体性, 実行力

単元について

5年生では社会科で「米作りのさかんな地域」について学習した。お米は日本人の主食であり、様々な環境や文化に大きく影響を及ぼしている。さらに、食糧の確保や食の安全性といった問題も多く含んでいる。

熊野町は筆作りの町であるが、農業の町でもあり、米作りをしている農家も存在する。その多くは販売を伴わない自給的農家で、1戸あたりが所有する農地の面積も小規模である。米作りに従事する人の高齢化や後継者不足により、遊休農地化が進んでいるという課題もある。一方、独自の基準で土づくりをしたヒノヒカリを、地域ブランド米「ふでりん米」として販売するといった取り組みもしている。

本単元では、米作りを通して「食」に対する関心を深め、「食」をとりまく課題を追究していく中で、熊野町の米作りに対する自分なりの考えをもち、自分の生き方を見つめていく学習をしたい。

児童の実態

(1) 資質・能力に対する実態

本単元で児童につけたい資質・能力に関わる児童アンケートの結果

資質・能力		アンケート項目	肯定的 (%)	否定的 (%)
②	課題発見・解決力	自ら課題を見つけ、課題解決のためのよりよい方法を見つけ解決することができますか。	83.9	17.1
③	主体性	自分の役割を自覚して行動することができますか。	83.9	17.1
④	実行力	学んだことを生活に活用することができますか。	80.6	19.4

資質・能力に関する児童アンケートでは、「課題発見・解決力」「主体性」に関する項目で肯定的な回答がともに83.9%である。また、「実行力」に関する項目でも肯定的な回答が80.6%と、いずれの項目でも肯定的回答が80%を超えている。多くの児童が、自身の資質・能力を肯定的にとらえていることがうかがえる。

しかし、教師から指示が出たり誰かが行動を起こしたりするのを待っている児童や、受け身で人任せの行動をする児童が見受けられる。自分や物事をよりよくするために課題や解決策を探したり、学習したことを生活と結びつけたりする力は、不十分であると考ええる。

指導観

【指導観】

第1小单元では、田植え体験を通じての疑問を手がかりに、熊野の米作りについて知るための課題をもち、インターネット、インタビュー、図鑑などで調べ活動を行う。その際、他教科との関連を図りながら、知識を総合的に活用させて活動させたい。

第2小单元では、熊野町のお米を普段から食べるにはどうしたらよいか考えさせたい。各家庭でとったアンケート結果を集計し、おうちの人にどのように熊野町のお米をおすすめすればよいか、そのためにはどんな情報を得ればいいのか考えていこうとするだろう。農林水産省の統計情報を見せ、熊野町は耕地面積率に対して販売農家率が低いことに注目させる。

【本単元の学習の流れ】

総合的な学習の時間

【熊野町の米作りって？】

(第1小单元)

- ・田植えて楽しいな。
- ・使われていない田んぼがあるね。
- ・他の品種と比べると？

【熊野のお米を食べるには？】

(第2小单元)

- ・自分たちのお米はおいしいね。
- ・ほとんど売られてないんだね。
- ・「ふでりん米」を売り込みたい。

熊野町の米作り

課題解決力

主体性

熊野町の米作りについて知るために、自分で課題をみつけ、調べる。

実行力

米作り体験や熊野町の農業について調べる活動を通して、自分なりの考えをもち、活動をしようとする。

【本単元の学習の流れ】

本単元で育成する資質・能力

本単元で児童につけたい資質・能力

資質・能力		
②	課題発見・解決力	熊野の米作りについて自ら課題を見つけ、課題解決のためのよりよい方法を見つけ解決することができる。
③	主体性	米作り体験や熊野町の農業について調べる活動において、自分の役割を自覚して行動することができる。
④	実行力	熊野の米作りの学習を通じて学んだことを活用し、ふるさとのために自分たちに何ができるか考え、実行することができる。

指導計画

児童の思考の流れと学習計画（全 36 時間）		関連する教科及び 資質・能力
単元の課題 出会い	「熊野町ではどのように米作りをしているのかな？」（2 時間） 遠足 田植え前の田んぼが多くあることに気づく もうすぐ田植えが始まるね。	学校行事 （5 月） 「お迎え遠足」
課題発見	田植え体験をしたり統計データを調べたりして、見つけた課題を整理する。（2 時間） ・米作りの苦労、工夫 ・熊野町の米作りの特徴 熊野の米作りは他の地域と違うのかな。	社会 （7 月）「米作りのさかんな地域」 農業に関わる人たちの努力と工夫を知る。 国語 （9 月）「資料を生かして考えたことを書こう」
情報収集 整理・分析	それぞれの課題を調べ、まとめる。（1 2 時間） 熊野では、工夫して米作りをしてきた歴史があるんだね ・図書資料 ・インターネット ・インタビュー ・統計で表す。	資料から情報を読み取り、読み取った情報を活用して、文章を書いたり資料を選択したりすることができる。
まとめ・表現	調べたことをまとめ、発表する。（2 時間）	国語 （7 月）「立場を決めて討論しよう」 互いの主張とその理由を明確に計画的に討論することができる。
課題発見	「熊野のお米を食べるには？」（2 時間）（本時） ・販売農家率 ・ふでりん米 ふでりん米をうりこみたい。	家庭科 （1 0 月）「食べて元気、ご飯とみそしる」 日本の伝統食のご飯とみそ汁の作り方をすることができる。
情報収集 整理・分析	それぞれの課題を調べ、まとめる。（1 2 時間） ・アンケート ・インターネット ・インタビュー ・統計で表す。 安心して食べられることが大切なんだね。	算数 （1 1 月）「単位量あたりの大きさ」 平均を計算で求めることができる。
まとめ・表現	調べたことをまとめ、発表する。（2 時間）	算数 （1 月）「百分率とグラフ」 数量の関係から割合や百分率、基準量、比較量を求めたり、割合を円グラフや帯グラフに表したりすることができる。
単元のゴール	熊野町の農業について自分のできることを考え、実行する。（2 時間） 熊野町の米作りについて知り、地域の伝統と自分自身について考え、ふるさとのために行動できる子どもを育てる。	社会 （7 月）「米作りのさかんな地域」 これからの米作りで大切にすべき点について根拠を示して発表し、今後の米作りのあり方について話し合うことができる。

本時の学習

- (1) 本時の目標
 ○ なぜ熊野町の販売農家率が低いのか考えることができる。
- (2) 本時の評価規準
 ○ 熊野町の販売農家率が低い理由を考え付箋に書き出している。
- (3) 本時の学習の展開

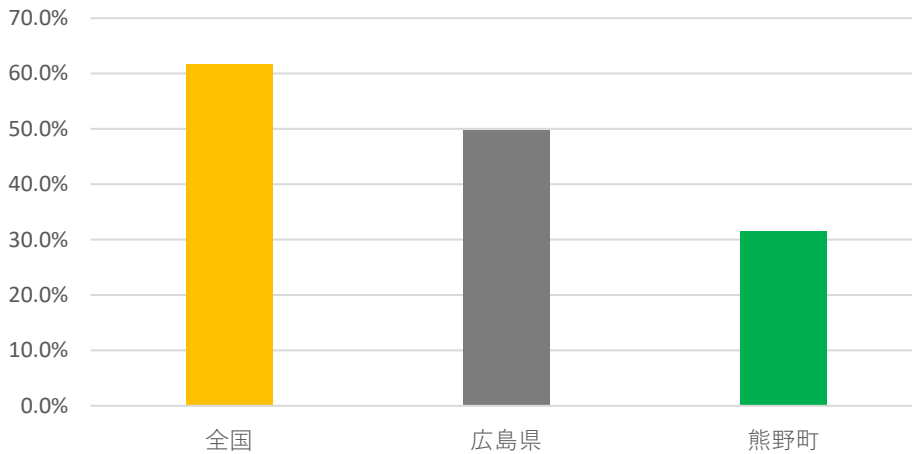
学習活動(・児童の反応)	指導上の留意事項	評価規準(評価方法)
1. アンケート結果を確認する。 ・広島県産のお米を食べている人が半分以上だね。 ・どうして家庭では熊野のお米を食べないの？ ・お米を親戚からもらう人が多いんだね。	・家庭へのアンケート結果から、広島県産の米を食べている家庭が多いものの、熊野町産のお米はほとんど食べられていないことを確認する。	
め なぜ熊野町の販売農家率が低いのか考えることができる。		
3. 熊野町の農林の基本指数を分析・考察する。 ・全国平均や広島県平均と比べて低いね。 ・売られてないなら買えないよね。 ・できた米は売らずにどうするんだろう？	・全国や広島県と比較すると、販売農家率が低いことをとらえさせる。	
4. 個人学習をする。 ○熊野の販売農家率が低い理由を考える。 ・売るほどのお米がないのかな。 ・農家さんはお米が売れなくてもいいのかな。 ・買う人が少ないから売らないのかな。		
5. 協働学習をする。 ○個人で考えたことを班で交流し、意見をグルーピングする。		
6. 学習のまとめをする。 ○班で考えたことを発表する。 ・作ったお米は自分たちで食べたり、親戚にあげたりしているのでは。 ・味や値段はどうなんだろう？ ・農家さんはお年寄りが多かったから少しの米しか作れないんじゃないかな。		
7. 振り返りを書く。 ㊦ ・振り返りの例 農家の人たちにインタビューしてみたいな。 熊野のお米の値段や味が知りたい。		統計データを元に、自分たちが普段熊野産のお米を食べていない理由を考え付箋に書き出している。 【課題解決力】 (付箋)

使用するデータ

総農家数における販売農家数の割合

農林水産省の基本指数より

販売農家率



板書計画

熊野町の米作り



なぜ熊野町の販売農家率が低いのか考えることができる。

普段食べているお米の産地



- ・ 50人中3人しか熊野産を食べてない。
- ・ 熊野に住んでいるのになぜ。
- ・ 売っているのを見たことがない。

販売農家率



- ・ 自分たちで食べている。
- ・ 農家さんはお年寄りが多いからたくさん作れない。
- ・ 売れない→味？値段？
- ・ 売る場所がない。
- ・ 広い田んぼがない。



- ・ 農家さんにインタビューしたい
- ・ 熊野産のお米の味や値段を知りたい

十一月二十二日（水）